テーマ：
看護を見える化する

意識障害・寝たきり（廃用症候群）患者の生活行動回復看護（Nursing to Independence for the Consciousness disorder and the Disuse syndrome Patient：NICD）は少しずつ全国に普及し、臨床から在宅までさまざまな場で実践されています。この看護の効果を可視化する試みについて考えたいと思います。

基調講演
看護の創造とその評価
生活行動の回復を目指す看護の未来へ向けて
講師：紙屋 克子（筑波大学名誉教授）

教育講演
笑顔の定量的評価
講師：鈴木 健嗣（筑波大学システム情報学系 教授）

一般演題（実践報告）
8月30日まで一般演題も受け付けております。申し込み方法等は下記までお問い合わせ下さい。